

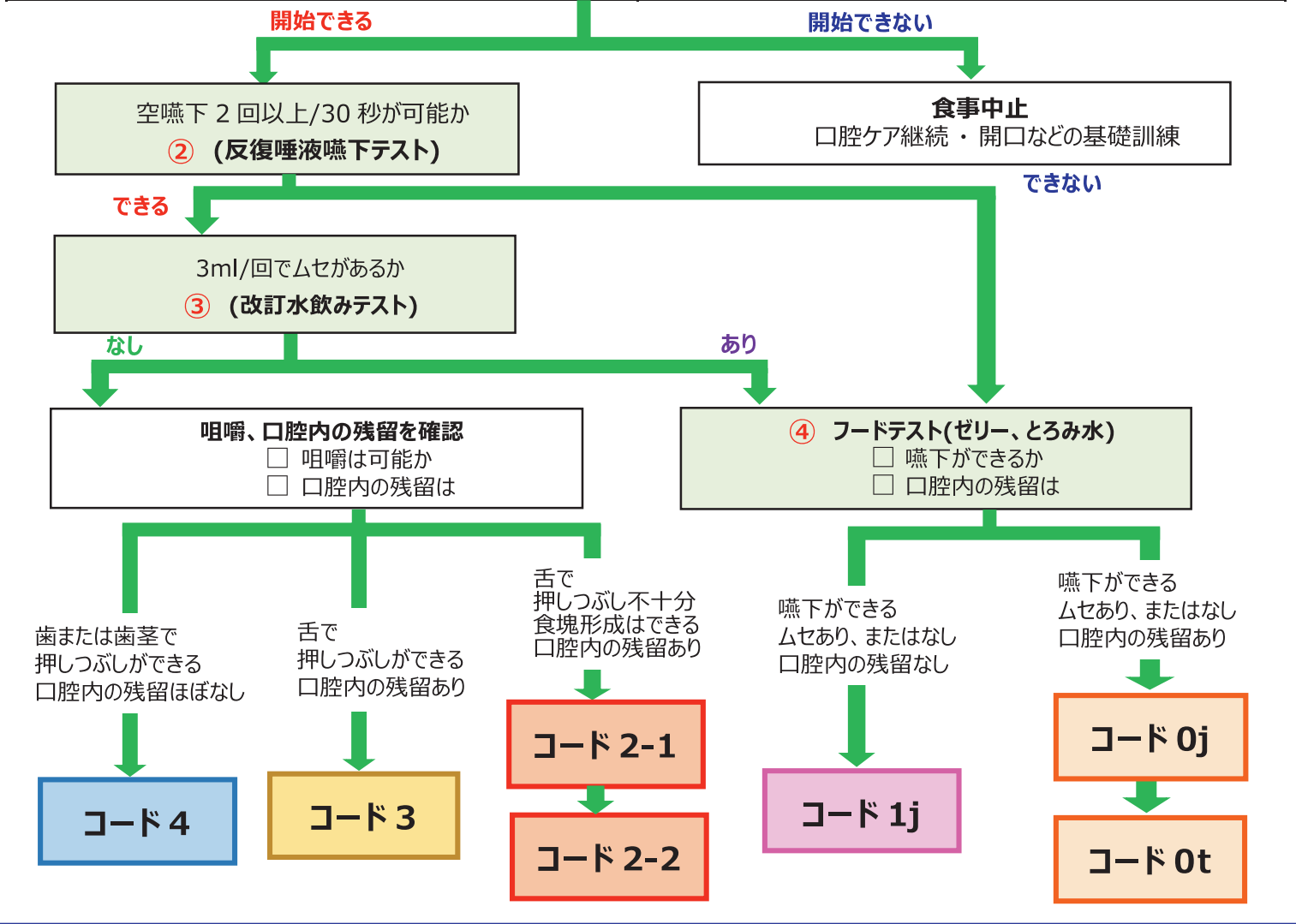
# 食形態選択のためのシート

対象者の身体・嚥下の状態を確認し、どのレベルの食事を提供するかを的確に判断するためには、「嚥下造影検査(VF)」や「嚥下内視鏡検査(VE)」など、機器による精密な検査に基づく判定が優先します。

施設内の医師や他職種と協働し、管理栄養士として嚥下・摂食機能障害を評価し、「学会分類 2013(食事)」分類の選択をすすめるためのシートを活用しましょう。シートは、(公社)栄養士会のホームページに掲載しています。

対象者/	様	年齢/	歳	性別/	男・女	実施日/	年	月	日( )	
評価職種	<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 歯科医師	<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 管理栄養士	<input type="checkbox"/> 言語聴覚士	<input type="checkbox"/> 介護職	<input type="checkbox"/> ( )			
VF	<input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 実施 ( )			VE	<input type="checkbox"/> 未実施 <input type="checkbox"/> 実施 ( )					

食事開始の確認項目 (下記の4項目を満たしているか確認しましょう)	
<input type="checkbox"/> 意識が清明 (① JCS 1桁)	<input type="checkbox"/> 体温 37.5℃ 未満
<input type="checkbox"/> SpO <sub>2</sub> 95%以上 または呼吸数 10~20 回/分	<input type="checkbox"/> 経口摂取の意欲があること



① JCS 1桁	意識レベルの表示方法 「0:意識清明」、「I-1:だいたい清明であるが、今ひとつはっきりしない」、「I-2:見当識障害がある(場所や時間、日付が分からない)」、「I-3:自分の名前、生年月日と言えない」
② 反復唾液嚥下テスト	中指で咽喉ぼとけを軽く押さえたまま、30秒間唾液を飲み続け、連続して2回以上飲み込めるか(嚥下反射)を確認する。(3回以上は正常)
③ 改訂水飲みテスト	3mlの冷水により嚥下を促し、ムセや湿声の有無・口腔内残留があるかを確認。
④ フードテスト	嚥下調整食のゼリーやとろみ水などを使い、食べた時の嚥下反射の有無やムセ、呼吸の変化などを確認。